

日新聞「クリントン大統領誕生(6308)」を提示し、「起承転結」の「転」の部分に入ると思われる言葉を書き入れさせた。吹き出しの言葉は、児童が登場人物に同化しやすく、ストーリーの流れの段階的な変化が顕著であるものを取り上げたので、児童にとっては考えやすかったようである。

〔児童の主な回答例〕

- なんでわかったの
- おばあちゃんすごい
- どうして知っているの(えらい)

自然にこのコマでストーリーの流れが転換していることを感じ取っていた。また、4コマ目との関連を意識して言葉を入れていた。この学習を通して、物語には事件の発端があり(起)、それが徐々に高まってい(承)、継続して来た話が急転回し(転)、話の結末を迎える(結)というストーリーの段階的な流れが理解できたようである。この後、『ガラスの小びん』の学習に入ったが、前の学習が活かされ事件の発端から、クライマックス、終結部まで構造的に理解し、文章全体の構成を把握することができたと考えられる。

(2) 象徴について学習させた授業

「象徴」について学習ワークを使用して学習させ、言葉の裏に潜む意味をとらえる練習をさせた。(教材は小学校2年で学習した『スイミー』を使用した。)

文章全体を読ませた後、次の手順で「象徴」について考えさせた。

- | | |
|-------------|------|
| ① 主人公をとらえる。 | スイミー |
| ↓ | |
| ② 主人公と対比されて | まぐろ |

いる人物をとらえる。

- ↓
③ 主人公⇔対比されて
いる人物の関係を言い
換える。

小⇔大
弱い⇔強い

ここで学習したことを参考として、『ガラスの小びん』の「象徴」について考えさせた。主人公と主人公に対比されている人物は、この作品の登場人物が少ないこともあり、すぐに「わたし⇔父」と指摘することができた。

〔児童の主な回答例〕

- 子⇔親
- ほこりを持っていない
⇔ほこりを持っている
- 今のガラスの小びんの持ち主
⇔前のガラスの小びんの持ち主

学習の最終段階として、作品の主題をこれまでの学習内容をもとにまとめさせた。両者がともに強くこだわり続けているものに「ガラスの小びん」がある。両者の間にそれを入れて関係を考えさせるようにした。一言でまとめるのがなかなか困難な児童には、「ガラス」「小びん」と一つ一つの言葉の持つイメージを掘り起こし、それらをつなぎ合わせて考えさせるようにした。これによって言葉の本来の意味をとらえ、そこから派生する意味まで理解できたと思われる。

〔児童の主な回答例〕

- (親が子に)引き継ぐこと
- ほこり(自信)を持つこと
- 自分の大切なもの(甲子園の土のような宝物)を持つこと